

# スキル科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
研究倫理特論	研究と実践の倫理	2	原 壘, 戸島 貴代志, 阿部 恒之, 木村 邦博, 坂井 信之, 辻本 昌弘, 小林 隆, 小泉 政利	1学期	水	5	
西洋古典文化特論	西洋古典文化への招待	2	荻原 理	2学期	水	5	
人文社会科学研究Ⅰ	死から生を考える臨床死 生学:人間の死とは何か?	2	大村 哲夫	1学期	月	2	
人文社会科学研究Ⅱ	悲嘆学試論:自他の死を どう受け止めるか?	2	大村 哲夫	2学期	月	2	
英語発表技能演習	英語の学術発表	2	クレイグ クリスト ファー	2学期	火	4	
英語研究論文作成法Ⅰ	Advanced Academic WritingⅠ	2	マックス・フィリップス	1学期	水	4	
英語研究論文作成法Ⅱ	Advanced Academic WritingⅡ	2	マックス・フィリップス	2学期	水	4	
日本語研究論文作成法Ⅰ	アカデミックライティングの基礎	2	高橋 亜希子	1学期	火	2	
日本語研究論文作成法Ⅱ	アカデミックライティングの書き方	2	高橋 亜希子	2学期	火	2	
日本語・日本文化論特論Ⅰ	日本文化論特論Ⅰ	2	KOPYLOVA OLGA	1学期	金	3	
日本語・日本文化論特論Ⅱ	日本文化論特論ⅠⅠ	2	KOPYLOVA OLGA	2学期	金	3	
人文統計基礎演習	人文社会科学研究と社会 貢献のための統計学入門	2	木村 邦博	1学期	月	2	
キャリア設計演習	キャリア・イメージを作る	2	キャリア支援担当	2学期	木	3	
科学技術社会論実践演習	<人間中心>で情報端 末をデザインする	2	直江 清隆, 高浦 康 有, 堀尾 喜彦, 佐藤 茂雄, 山内 保典	集中(1学期)			

**科目名：研究倫理特論／ Research Ethics (Advanced Lecture)**

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：原 壘、戸島 貴代志、阿部 恒之、木村 邦博、坂井 信之、辻本 昌弘、小林 隆、小泉 政利（教授、准教授）

講義コード：LM13509， 科目ナンバリング：LAL-OAR509J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

**1. 授業題目：**

研究と実践の倫理

**2. Course Title (授業題目)：**

Research Ethics

**3. 授業の目的と概要：**

科学研究は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、他方、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、人びとを誤った仕方でも導いたりすることもあります。そのため、研究に従事する人々（大学院生を含みます）は、倫理的・手続的に正しい仕方でも研究や研究発表を行なう責任を負っています。特に、人文社会科学では、実験・質問紙調査・フィールドワーク・聞き取り調査・歴史資料・インターネット情報の収集など様々な手法で研究が行なわれるため、多様な倫理的問題に対処しなければなりません。この授業では、研究倫理と公正な研究に関する基礎を講義し、その上で、それぞれの研究手法に応じた倫理的問題とその問題への対処方法について複数教員が担当し、解説します。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

In this course, the theoretical basis of research ethics and integrity, as well as ethical problems typical of various research fields of humanities and social sciences are discussed.

**5. 学習の到達目標：**

研究倫理と公正な研究について理解し、その理解に基づいて、研究を実践できるようになることが、この授業の到達目標です。より具体的な到達目標は以下の通りです。

1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。
2. 実験・調査参加者や、その他の関係者の権利を尊重する必要性、そのために考慮すべき事項や手続きを理解し、その知識に基づいた研究活動を行なうこと。
3. 責任ある仕方でも研究を実施するために研究者が遵守すべき様々な規範と、その規範を遵守すべき理由を理解した上で、その規範を遵守すること。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

To understand research ethics and integrity, and to be able to practice research based on that understanding.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 第1回：イントロダクション（担当：原壘）
- 第2回：人間と技術（担当：戸島貴代志）
- 第3回：科学と倫理（担当：戸島貴代志）
- 第4回：人を対象とした医学系研究における倫理（担当：坂井信之）
- 第5回：心理学実験における倫理（担当：坂井信之）
- 第6回：質問紙調査研究の実践と倫理（担当：木村邦博）
- 第7回：研究倫理を踏まえた質問紙調査法改善の動向（担当：木村邦博）
- 第8回：フィールドワークにおける倫理の基本原則（担当：辻本昌弘）
- 第9回：フィールドワークにおける倫理の実践的問題（担当：辻本昌弘）
- 第10回：聞き取り調査の実践と倫理の諸問題（担当：小林隆）
- 第11回：著作権・商標・特許等の問題について（担当：阿部恒之）
- 第12回：研究不正の防止と対応（担当：小泉政利）
- 第13回：引用において気をつけるべきこと（担当：原壘）
- 第14回：ピア・レビューと研究の質保証（担当：原壘）
- 第15回：研究の再現性（担当：原壘）

**8. 成績評価方法：**

平常点 30%、e-ラーニングの受講 20%、レポート 50%

**9. 教科書および参考書：**

教科書は使指定された教科書はありません。参考書は授業時に教えます。

**10. 授業時間外学習：**

講義内容について十分、復習を行ってください。授業内容について独自に調べ、理解を深めた上で、それをレポートとしてまとめていただきます。また、公正な研究について、e-ラーニングを受講する必要があります。e-ラーニングの受講方法については、初回の授業で指示します。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

**12. その他：**

科目名：西洋古典文化特論／ Western Classical Culture (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：荻原 理（教授）

講義コード：LM23509， 科目ナンバリング：LAL-OAR510J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

**1. 授業題目：**

西洋古典文化への招待

**2. Course Title (授業題目)：**

Introduction to Western Classical Culture

**3. 授業の目的と概要：**

ギリシャ・ローマの文化について基本的な事柄を学び、西洋古代の世界に馴染む（その知識は、実に様々な場面で役に立つはずである）。言語文化が中心で、思想、諸芸術、歴史の最重要事項を学ぶ。また、ギリシャ・ローマの文化が後代に与えた影響や、日本における西洋古典文化の受容にも若干触れる。

**4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)**

We shall learn basics about Greek and Roman culture such as the languages, philosophy, history and literature.

**5. 学習の到達目標：**

西洋古典文化に馴染み、最重要事項について説明できるようになる。西洋文化の今後の研究に活かせるようになる。

**6. Learning Goals (学修の到達目標)**

To get acquainted with Western classical culture.

To be able to explain basic facts about Greek and Roman cultures.

To be ready to make use of the knowledge of those cultures for further studies in Western culture at large

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

ギリシャ語・ラテン語の初歩の初歩、ギリシャ・ローマの（言語）文化（哲学・思想、文学・演劇等諸芸術、歴史）にまつわる基本的事項を学ぶ。講義形式だが、積極的に質問してもらいたい。希望者によるプレゼンも行なう。プレゼンを行なわない参加者には学期末レポートを提出してもらう。参加者の関心を尊重するよう工夫したい。

1. イントロ／ギリシャ文字
2. ギリシャ語 初歩の初歩 (1)
3. ギリシャ語 初歩の初歩 (2)
4. ラテン語 初歩の初歩 (1)
5. ラテン語 初歩の初歩 (2)
6. ギリシャ語・ラテン語と近代諸語
7. ギリシャ・ローマの哲学 (1)
8. ギリシャ・ローマの哲学 (2)
9. ギリシャ・ローマの歴史 (1)
10. ギリシャ・ローマの歴史 (2)
11. ギリシャ・ローマの文学 (1)
12. ギリシャ・ローマの文学 (2)
13. 西洋古典文化の後代への影響
14. プレゼンテーション
15. プレゼンテーション

**8. 成績評価方法：**

プレゼンテーション または 学期末レポート

**9. 教科書および参考書：**

授業中に指定する

**10. 授業時間外学習：**

授業の内容の復習。プレゼンテーションまたは学期末レポートの準備

**11. 実務・実践的授業/Practical business：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

**12. その他：**

受講にあたり、あらかじめ学んでおかなければならないことは特になし。

科目名：人文社会科学研究 I / Advanced Study of Humanities and Social Sciences I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：大村 哲夫（准教授）

講義コード：LM11208， 科目ナンバリング：LAL-OAR511J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

#### 1. 授業題目：

死から生を考える臨床死生学：人間の死とは何か？

#### 2. Course Title (授業題目)：

Clinical thanatology thinking about life from death: What is a person's death?

#### 3. 授業の目的と概要：

人は自らの死を経験することはできないが、他者の死を通して学ぶことは出来る。人間だけが、「自分もやがて死ぬことを意識できる生物」である。死は「自然現象」であると同時に、自他の死を受容する「文化現象」でもある。

ヒトという生物の生である「人生」は、自己と他者である事物を結びつけ、それに意味を与えることによって作られる。「偶然」のできごとが「運命」の出会いとなるなど、人の生は合理的な思考のみで生きているわけではない。人生そのものが、映画や小説のテーマとなるように、人は非合理的な生き方に意味を見出している。人があえて、「合理的ではない行為」をとる時、その行為には心理的に深い意味が込められている。人の死に関わる「葬送」、「慰霊（供養）」、「墓参」なども非合理的行為であるが、当事者にとって意味ある行為となる。自他の死の受容についても同様に、合理と非合理、立場の相違によって揺れる。本講では、具体的な「他者の死」から「自己の死」をデザインすることを通して、私たち一人一人の「生」を摸索する一助としたい。

#### 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

People cannot experience beforehand their own death, but they can learn from the death of others. Only humans are “animals that are conscious of their own mortality.” Although death is a “natural phenomenon” it is also a “cultural phenomenon” where we must accept our death and those of others.

The life of the living organism known as man is “human life,” which is given meaning by the connection between the self and others. Just like how we turn the “coincidence” into the “fateful” encounter, a person does not live within rational thought alone. Life itself like the plot of a novel or movie is a person discovering meaning in irrational way of living. When a person must perform an “irrational act,” that action is embedded with deep psychological meaning. Funerals, memorializing the dead, and visiting the grave, which are related to a person's death, are irrational acts, but they become meaningful acts to the person performing them. How one's own death and that of others is received likewise sways between rational and irrational differing with the situation. It is hoped that the designing of our “own death,” based on the real “death of others,” will aid in each one of us humans as we journey through our lives.

#### 5. 学習の到達目標：

1. タブー視されがちな自他の「死」を、具体的な事例を通して考えることによって、自らの「生」の意味を探る。
2. 「延命治療」や「尊厳死」、「安楽死」、脳死、臓器移植、緩和医療、認知症、死に場所、「終活」、葬儀など現代の問題について自ら考える力をつける。

#### 6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. Explore the meaning of one's own life by thinking about the concrete examples of how people tend to view their own death and those of others as taboo.
2. Critically think about the contemporary problems such as “Life-support treatment” and “Dignity in dying”, brain death, organ transplant, palliative medicine, place of death, “Preparation for the end of life,” and funerals.

#### 7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容（予定）についてテーマを選択し、事例を通して考える。それぞれのテーマについて数回の講義を行う。ミニット・ペーパーを利用した匿名のディスカッションを行うことによって、死に方・生き方には普遍的「正解」はなく、それぞれの人や置かれている状況によって異なることを学ぶ。

- 0：イントロダクション 闇の中でこそ光が
- 1：現代人の死に場所 病院死と在宅死
- 2：「ホスピス」とシシリー・ソルダース
- 3：緩和医療とスピリチュアル・ケア
- 4：臓器は誰のもの？ 死の判定と臓器移植
- 5：あらかじめ決める 「安楽死」と「尊厳死」、「事前指示」
- 6：自らの死をデザインする 「エンディングノート」、「終活」
- 7：死を受容する心理 キューブラー＝ロスの5段階説
- 8：グリーフ・ケアとしての5段階と意味再構成
- 9：「よく生きること」と「ただ生きる」こと
- 10：ある少女の選択 命は誰のもの？

#### 8. 成績評価方法：

毎時、ミニット・ペーパー提出。学期末課題論文提出。

**9. 教科書および参考書：**

特に定めないが、授業の中で参考図書を紹介する。

Additional references and texts will be provided by the instructor.

**10. 授業時間外学習：**

40分程度の予習と復習。

About 40 minutes of study is required.

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

**12. その他：**

後期に同時間に展開される講義の前半であるが、単独受講を妨げない。

科目名：人文社会科学研究Ⅱ／ Advanced Study of Humanities and Social Sciences II

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：2学期， 単位数：2

担当教員：大村 哲夫（准教授）

講義コード：LM21203， 科目ナンバリング：LAL-OAR512J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

**1. 授業題目：**

悲嘆学試論：自他の死をどう受け止めるか？

**2. Course Title (授業題目)：**

Grief Studies Theory

**3. 授業の目的と概要：**

人は生きていく上でさまざまな「悲嘆 (grief)」と遭遇する。誰でも起こりうる普遍的な経験と言える。自分にとってかけがえのないもの：自分のいのち，大切な人，ペット，故郷，記念となる物…を「喪失 (loss)」した時，私たちは心理面はもちろん，身体的にも痛みを覚え，さまざまな症状をおこす。「悲嘆」とそれへの対応は，人類のはじまりより共にあるものの，「学」として確立された領域というより，むしろ実践的な「知恵」の側面をもつ。本講ではこうした現状を踏まえ，悲嘆をケアすること (grief care) と，悲嘆からの立ち直り (grief work) について，「宗教」の役割にも触れつつ考えていきたい。前期と同様，事例 (ビデオを含む) を用いて展開する。

**4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)**

Throughout their lives people have many encounters with “grief” 悲嘆. When faced with the “loss” 喪失 of those things that are indispensable to us, such as a memento, native home, pet, loved one, or even with our own life, then we feel the pain not only psychologically, but also physically. Such pain manifests in a variety of symptoms. Despite that grief and the coping with grief has accompanied humankind from its inception, rather than having an established domain as a field of study, instead an aspect of practical “wisdom” 知恵 exists. With an awareness of this current situation, in this lecture class we will explore how to care for grieving people (grief care) and how to help people overcome their grief (grief work) while thinking about the role of religion.

**5. 学習の到達目標：**

1. 悲嘆という現象について理解する。
2. 悲嘆を癒す「グリーフ・ケア」について学ぶ。
3. 悲嘆からの立ち直り「グリーフ・ワーク」について学ぶ。
4. 悲嘆と共に生きることについて考える力をつける。

**6. Learning Goals (学修の到達目標)**

1. Understand about the phenomenon of grief.
2. Learn about how to ease grief (grief care).
3. Learn about how to overcome grief (grief work).
4. Critically think about how to live with grief.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

以下の内容 (予定) から選択し，可能な限り事例を通して考える。ミニット・ペーパーを利用した匿名のディスカッションを行うことによって，自ら考えるとともに他者の考えを知り，考えを深める。

0. イントロダクション；「永訣の朝」 他者の死と私，

1. 悲嘆と喪失
2. 「ここは天国だよ」 認知症患者の世界と死の受容
3. 死者のヴィジョン 「お迎え」か「譫妄」か
4. 寝たきりの人生 『病牀六尺』
5. 苦しみの意味づけ，
6. 自己の死と予期悲嘆
7. 看取り
8. 死別の癒し：葬儀・宗教儀礼の意味，
9. 意味再構成理論，
10. 『子を喪へるの親の心』，
  - 1 1. 災害死，死者におくる卒業証書，
  - 1 2. 民間信仰：地藏によるケア，
  - 1 3. 信仰治療 宗教と癒しなど，Guatemala の信仰治療
  - 1 4. 現代的死の受容：遍在と自然回帰，
  - 1 5. その他

**8. 成績評価方法：**

毎時ミニット・ペーパーの提出。学期末課題論文提出。

**9. 教科書および参考書：**

特に定めないが，授業の中で参考図書を紹介する。

Additional references and texts will be provided by the instructor.

**1 0. 授業時間外学習：**

40分程度の予習と復習。

About 40 minutes of study is required.

**1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**1 2. その他：**

前期の後半であるが、本講義のみの受講も妨げない。前期講義の進捗状況によって講義内容は変更される。

科目名：英語発表技能演習／ Academic Presentation (Practicum)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：クレイグ クリストファー（准教授）

講義コード：LM22407， 科目ナンバリング：LAL-OAR513E， 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

**1. 授業題目：**

英語の学術発表

**2. Course Title (授業題目)：**

Academic Presentation in English

**3. 授業の目的と概要：**

授業では、英語の学術の環境の中で研究を報告の仕方を学ぶ。また、全面的に英語の学会やシンポジウムに参加する方法を学ぶ。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

This class offers practical instruction on presenting research in an English-language academic setting. It also provides instruction on various aspects of participation in English-language academic conferences and symposia.

**5. 学習の到達目標：**

英語の学会やシンポジウムに参加し報告することが出来るための必要の技術を学ぶ。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

The primary goal of the class is for students to gain the skills necessary to present at and participate in English-language academic conferences and symposia.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 序論:英語の学会
2. 発表・報告の基本
3. ディスカッションと質問
4. 学生発表と フィードバック
5. 学生発表と フィードバック
6. 学生発表と フィードバック
7. 学生発表と フィードバック
8. 学生発表と フィードバック
9. 学生発表と フィードバック
10. 学生発表と フィードバック
11. 学生発表と フィードバック
12. 学生発表と フィードバック
13. 学生発表と フィードバック
14. 学生発表と フィードバック
15. 学生発表と フィードバック

**8. 成績評価方法：**

Presentation [60%], Discussion participation [40%]

**9. 教科書および参考書：**

必要な適宜資料を配布する。

Necessary readings will be distributed.

**10. 授業時間外学習：**

- 1 回研究発表
- 12 回ディスカッション
- 1 presentation
- Discussion participation (each class)

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

**12. その他：**

This class is taught in English.



科目名：英語研究論文作成法 I / Advanced English for Academic writing I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：マックス・フィリップス（非常勤講師）

講義コード：LM13407， 科目ナンバリング：LAL-OAR514E， 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

**1. 授業題目：**

Advanced Academic Writing I

**2. Course Title (授業題目)：**

Advanced Academic Writing I

**3. 授業の目的と概要：**

The course is an introduction to academic writing at the graduate level. Students will learn how to logically arrange their thoughts and ideas into coherent essays. As part of the course, students will learn: a) how to write effective thesis statements, b) strategies for pre-writing, writing, organization, revising and proofreading, c) various word-, sentence-, and paragraph- level strategies for improving the quality of their writing, and d) how to focus and develop ideas, among other skills.

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

**5. 学習の到達目標：**

Students will learn how to organize their English writing to an appropriate level, through a systematic, step-by-step approach.

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1) Course Introduction; Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules
- 2) Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies
- 3) Basic Sentence Structure; Parallelism Rules
- 4) Writing an Outline; Basic Paragraph Structure
- 5) Basic Essay Structure
- 6) Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading
- 7) Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment
- 8) Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment
- 9) Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1 - Compare/Contrast
- 10) Organization 2 - Chronological Order
- 11) Organization 3 - Cause/Effect
- 12) Workshop 2 (E2 one-on-one)
- 13) Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language
- 14) Workshop 3
- 15) Semester Exam

**8. 成績評価方法：**

Final grade to be determined by submitted essays and workshop participation.

**9. 教科書および参考書：**

Course Syllabus based on "Discoveries in Academic Writing," by Barbara Harris Leonhard and "Teaching Academic Writing" by Eli Hinkel.

**10. 授業時間外学習：**

Attendance is mandatory. Students who accrue more than 2 unexcused absences will be expelled from the course. No auditors are permitted.

**11. 実務・実践的授業/Practical business：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

**12. その他：**

科目名：英語研究論文作成法Ⅱ／ Advanced English for Academic writing II

曜日・講時：後期 水曜日 4講時

Semester：2学期， 単位数：2

担当教員：マックス・フィリップス（非常勤講師）

講義コード：LM23408， 科目ナンバリング：LAL-OAR515E， 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

Advanced Academic Writing II

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Academic Writing II

3. 授業の目的と概要：

Prerequisite: Successful completion of AAWI. In addition to research writing, AAWII seeks to develop students' ability to adapt to a broader range of writing situations, while writing at a deeper level. AAWII encourages the development of an individual 'voice'. For example, where in AAWI a student might have developed the ability to write an essay clearly and persuasively for an educated general audience, AAW II seeks to move beyond that to developing a unique perspective and voice appropriate to higher level academic writing.

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

Students will learn how to organize and write a multi-page research paper, which necessarily includes citations to others people's work.

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Course Introduction; The Research Process
- 2) Choosing a Topic; Identifying Potential Resources
- 3) Gathering Source Material - Evaluating Sources
- 4) Note-Taking
- 5) Using the Internet for Research
- 6) Considering Organization
- 7) How to Organize Notes / Write Outline
- 8) Workshop 1 (Outline - rough draft)
- 9) Integrating Source Material; First Draft Writing
- 10) Understanding Citations; Documenting Sources In-text
- 11) Paper Format; Documenting Sources Post-text
- 12) Workshop 2 (rough draft of main body)
- 13) Writing Introduction and Conclusion for Research Papers
- 14) Writing Workshop 3 (rough draft of paper)
- 15) Abstract Writing

8. 成績評価方法：

Final grade will be determined by research paper, and workshop participation.

9. 教科書および参考書：

Course Syllabus based in part on: MLA Style Manual and Guide to Scholarly Publishing, 3rd Ed.

10. 授業時間外学習：

Attendance is mandatory. Students who accrue more than 2 unexcused absences will be expelled from the course. Absolutely no auditors.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：日本語研究論文作成法Ⅰ／Advanced Japanese for Academic writingⅠ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

Semester：1学期， 単位数：2

担当教員：高橋 亜希子（非常勤講師）

講義コード：LM12213， 科目ナンバリング：LAL-OAR516J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

**1. 授業題目：**

アカデミックライティングの基礎

**2. Course Title (授業題目)：**

Academic Writing I

**3. 授業の目的と概要：**

この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を正確に、わかりやすく書けるようになることです。そのために、日本語で文章を書くときに必要な基礎的な知識、文法、表現などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

The aim of this course is to help students acquire basic academic writing skills in Japanese. This course also furthers the development of a student's skills in writing reports and research papers properly. In addition, students have opportunities to practice peer review and improve their reports.

**5. 学習の到達目標：**

- 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身に着ける
- 2 読み手にわかりやすく書く力をつける

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

The goals of this course are to:

1. develop the writing skills and learn useful expressions.
2. learn proper sentence construction.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. オリエンテーション
2. 自己紹介文を書く
3. 自分の研究を紹介する
4. 書き言葉のルール
5. 過程を説明する
6. 定義を説明する①
7. 定義を説明する②
8. 分類・例示を説明する①
9. 分類・例示を説明する②
10. 比較・対照を説明する①
11. 比較・対照を説明する②
12. 原因・結果を説明する①
13. 原因・結果を説明する②
14. 全体のまとめ①
15. 全体のまとめ②

**8. 成績評価方法：**

宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%

以上の割合で、総合的に判定する

**9. 教科書および参考書：**

教科書はありません。授業のときに指示します。

参考書は『Good Writing へのパスポート』（くろしお出版）、『レポート・論文を書くための日本語文法』（くろしお出版）など

**10. 授業時間外学習：**

ほぼ毎回、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

**12. その他：**

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語研究論文作成法Ⅱ／ Advanced Japanese for Academic writing II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：2学期， 単位数：2

担当教員：高橋 亜希子（非常勤講師）

講義コード：LM22209， 科目ナンバリング：LAL-OAR517J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

**1. 授業題目：**

アカデミックライティングの書き方

**2. Course Title (授業題目)：**

Academic writing II

**3. 授業の目的と概要：**

この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を作成する手順にそって、レポートを完成させるまでのプロセスを学ぶことです。そのために、テーマの調べ方や資料の調べ方、文章の構成の仕方、引用の方法などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

The aim of this course is to help students learn and experience the process of writing a report in Japanese. This course also furthers the development of a student's research skills. Specifically, in developing a research topic and thesis, reviewing relevant literature, and learning writing structure and citation methods. In addition, students have opportunities to practice peer review and improve their reports.

**5. 学習の到達目標：**

- 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身に着ける
- 2 読み手にわかりやすく書く力をつける
- 3 レポートや論文を作成する方法を身に着ける

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

The goals of this course are to

1. develop the writing skills and learn useful expressions.
2. learn proper sentence construction.
3. learn the skills necessary for writing a report or a research paper

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. オリエンテーション
2. テーマを見つけよう・調べよう
3. 資料の探し方を知ろう
4. 資料を整理しよう・話し合おう
5. 資料を読んで整理しよう
6. テーマの絞り込みと定義の重要性を学ぼう
7. 定義の書き方を考えよう
8. 筆者の意図と構成を考えよう
9. タイトル・アウトラインを作成しよう
10. 引用方法や参考文献の書き方を学ぼう
11. レポートを書くときの表現を学ぼう
12. レポートを作成する前に確認しよう
13. ともだちのレポートを読んでフィードバックをしよう
14. フィードバックを読んで、よりよい文章に直そう
15. 自分のレポートを読んで、自分の成長をまとめよう

**8. 成績評価方法：**

宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%

以上の割合で、総合的に判定する

**9. 教科書および参考書：**

教科書はありません。授業のときに指示します。参考書は『あしか：アイデアをもって社会について考える（レポート・論文編）』（ココ出版）、『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』（ひつじ書房）など

**10. 授業時間外学習：**

ほぼ毎回、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

**12. その他：**

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語・日本文化論特論Ⅰ／ Studies of Japanese Culture(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

semester：1学期， 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA (助教)

講義コード：LM15307， 科目ナンバリング：LAL-OAR518J， 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

**1. 授業題目：**

日本文化論特論Ⅰ

**2. Course Title (授業題目)：**

Studies of Japanese Culture (Special Lecture) I

**3. 授業の目的と概要：**

本授業は日本のポピュラー・カルチャーをテーマにしており、さらにオタク市場とその主要な概念、表現メディア、ジャンルに焦点を当てている。生産側の戦力と消費者（特にオタク）の活動の相互作用と意義を考察し、日本におけるポピュラー・カルチャーの現場を特徴付ける点を取り上げながら、様々な産業と趣向を紹介していく。皆さんはこの授業によって日本のポピュラー・カルチャーの展望を成立させ、これから自分の研究において活用できる観点や考え方を見つけたらありがたいと思う。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

This course focuses first and foremost on Japanese popular culture: its key concepts, main media forms, genres and practices. It aims to demonstrate how creative industries (for instance, TV producers, publishers, or game developers) interact with consumers (especially fans), and how popular culture is disseminated and used. Through this course, students will gain an opportunity to consider multiple phenomena that distinguish cultural production in Japan, from economic conditions that influence creative industries, to consumption patterns and fan activities, to storytelling techniques, to the specificity of various media. Students will develop a more nuanced understanding of Japanese popular culture, on the one hand, and be able to discover new lines of inquiry potentially applicable in their postgraduate research, on the other hand.

**5. 学習の到達目標：**

いわゆる「オタク市場」の主なメディア、ジャンルと概念、そしてその特徴と機能を様々な立場から考察できる。消費活動と消費者の価値観および要望の関連性、もしくはそれらと影響しあう産業の構造を理解する。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

By the end of the course, students should be able to:

- 1) Describe major media associated with Japanese otaku market, their history, specifics of their production, distribution and consumption, as well as their relations with other media.
- 2) Recognize specific features of Japanese media and consumer behavior, but also find analogues and parallels in other countries where possible; use this understanding of the specific and the common to discern world-wide trends in popular culture.
- 3) Consume and evaluate works of Japanese popular culture from multiple standpoints, addressing both form and content and taking into account factors that might have shaped the former and the latter.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

The course will be conducted in English, however supplementary reading may include materials in Japanese.

1. Introduction: Various ‘cultures’ — popular culture
2. Proto-popular culture in Edo period
3. The ‘CUTE’ wave
4. Many faces of ‘kyara’
5. What is ‘otaku’ ?
6. Different types of fan engagement and fan creativity
7. Various media of otaku market I
8. Various media of otaku market II
9. Various media of otaku market III
10. Various media of otaku market IV
11. How is ‘character’ different from ‘kyara’ ?
12. Japanese TV and tarento
13. Idols, celebrities, and promotional agencies
14. Otaku market expanding outside Japan
15. Final test

(講義構成は変更することがあります)

(the lecture content may be subject to change)

**8. 成績評価方法：**

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席（40%）、期末テスト（35%）、課題（15%）および授業への貢献を加味する。

**9. 教科書および参考書：**

**1 0. 授業時間外学習 :**

Students are required to read and material provided to them by the lecturer before class.

Students are also encouraged to actively draw examples and cases from their own experience of popular culture within and outside Japan.

**1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness :**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**1 2. その他 :**

If you have any questions regarding the course, feel free to contact me via the following email:

olga.s.kopilova@gmail.com

You can also find me in OASIS on Mon. ~Thur. 10 am-12 pm.

[https://www.tohoku.ac.jp/en/about/facilities/students/71\\_oasis.html](https://www.tohoku.ac.jp/en/about/facilities/students/71_oasis.html)

科目名：日本語・日本文化論特論Ⅱ／ Studies of Japanese Culture(Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

semester：2学期， 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA (助教)

講義コード：LM25304, 科目ナンバリング：LAL-OAR519J, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

日本文化論特論ⅠⅠ

2. Course Title (授業題目)：

Studies of Japanese Culture (Special Lecture) II

3. 授業の目的と概要：

本授業は日本のポピュラー・カルチャー、特にいわゆる「オタク文化」をテーマにしており、オタク消費の対象に焦点を当てる「日本文化論特論Ⅰ」に対して、オタクの行動、消費そのものの特徴に焦点を絞ります。さらに、本コースではオタク文化だけでなく、ポピュラー・カルチャー全体のトレンドを消化します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

As a direct continuation of 日本文化論特論Ⅰ, this course demonstrates how popular culture in Japan mixes with a more niche fan (otaku) culture and vice versa.

The course consists of two parts.

The first part elaborates on certain aspects of the otaku culture introduced in the 日本文化論特論Ⅰ (however, taking the first course is not a strict requirement ).

The second part of the course introduces general trends that characterize Japanese popular culture of today and shape popular content, media, and consumer practices.

5. 学習の到達目標：

いわゆる「オタク文化」の特徴とオタクの価値観及び消費行動を様々な立場から考察できる。  
ポピュラー・カルチャーのあらゆるトレンドあるいは現象を多面的に観察し、それを形成していく要素を検出できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

By the end of the course, students should be able to:

1) Describe key concepts of the otaku culture and general trends in otaku consumption in Japan; but also find analogues and parallels in other countries where possible; use this understanding of the specific and the common to discern world-wide trends in popular culture.

2) Cultivate a more nuanced understanding of various popular cultural practices, evaluate their significance from multiple standpoints and describe factors that might have shaped these practices in the first place.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

The course will be conducted in English, however supplementary reading may include materials in Japanese.

1. Introduction: Various ‘cultures’ — popular culture
2. “Otakuology” : defining otaku
3. Different types of fan engagement and fan creativity
4. 2.5-dimensional’ fan practices: cosplay, fan pilgrimage, maid cafes, etc.
5. Internet communities and platforms
6. Beyond fan culture
7. The ‘CUTE’ industry: from lunch boxes to fashion
8. Many faces of ‘kyara’ II
9. Yōkai and urban legends
10. The language of emoji and kaomoji
11. Animal cafes, parks and islands
12. Traveling in Japan: from Edo to nowadays
13. Commercialization of holidays and holidays that have gone worldwide
14. Q&A, final notes
15. Final test

(講義構成は変更することがあります)

(the lecture content may be subject to change)

8. 成績評価方法：

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席（40%）、期末テスト（35%）、課題（15%）および授業への貢献を加味する。

9. 教科書および参考書：

10. 授業時間外学習：

Students are required to read and watch materials provided to them by the lecturer before class.

Students are also encouraged to actively draw examples and cases from their own experience of popular culture

within and outside Japan.

**1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness :**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**1 2. その他 :**

If you have any questions regarding the course, feel free to contact me via the following email:  
olga.s.kopilova@gmail.com

You can also find me in OASIS on Mon. ~Thur. 10 am-12 pm.

[https://www.tohoku.ac.jp/en/about/facilities/students/71\\_oasis.html](https://www.tohoku.ac.jp/en/about/facilities/students/71_oasis.html)



科目名：人文統計基礎演習／ Statistics for Humanities (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LM11209， 科目ナンバリング：LAL-OAR520J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

**1. 授業題目：**

人文社会科学研究と社会貢献のための統計学入門

**2. Course Title (授業題目)：**

Introduction to Statistics for Humanities and Social Sciences

**3. 授業の目的と概要：**

人間および社会に対する理解を深め研究・社会貢献を行うための統計学的素養を身につける。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

The purpose of this seminar is to help students to learn elementary statistical methods for understanding human beings and their societies.

**5. 学習の到達目標：**

学術論文やメディア報道などにおける「統計の誤用」の事例を検討することを通して、データ収集法・統計分析手法の基本的な考え方を学ぶ。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

Students will learn the methods of data collection and statistical analysis by examining the examples of the misuse of statistics in academic writings and journalism.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 人間社会と統計
2. 問いの立て方と対象の選択（仮説の意味）
3. 「平均」の意味（中心性傾向の把握）
4. 測定の妥当性と信頼性（測りたいものが測れているか）
5. 統計的検定と推定（誤差の考え方）
6. グラフの描き方
7. 指標・指数の使い方（変数の変換・合成）
8. 関連・相関の評価
9. 相関と因果（疑似相関、媒介関係など）
10. 統計的因果推論の方法
11. 調査における母集団と標本の偏り（標本誤差と非標本誤差）
12. 実験における攪乱要因の統制とその限界
13. 文章データの統計解析（自然言語処理とテキストマイニング）
14. 新しい時代の統計学（ビッグデータ、ベイズ統計、人の迷惑にならないデータ収集法）
15. 統計でウソをつかないために

**8. 成績評価方法：**

期末レポート [50%]、平常点（授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程） [50%]

**9. 教科書および参考書：**

教科書：ダレル・ハフ『統計でウソをつく法』講談社、および ISTU で配付する文献

参考書：佐伯胖・松原望『実践としての統計学』東京大学出版会、ほか（授業で指示する）

**10. 授業時間外学習：**

- (1) 演習の時間に取り上げる章や文献を事前に読んで検討しておく。
- (2) 担当の章・文献に関する報告の準備（事例の収集を含む）をする。
- (3) 関連文献を検索して読み、あわせて検討する。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

**12. その他：**

受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

**科目名：キャリア設計演習／ Carrier Design Seminar**

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：キャリア支援担当（教授）

講義コード：LM24301， 科目ナンバリング：LAL-0AR521J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

**1. 授業題目：**

キャリア・イメージを作る

**2. Course Title (授業題目)：**

For making a concept of your own profession

**3. 授業の目的と概要：**

この授業では、文学部学生が、日本の経済構造や労働法制といった基本事項について理解を深めるとともに、実際の「働く」現場のあり様について具体的なイメージを持ち、自らの将来のキャリアを主体的にプランニングしていけるよう、キャリア支援センターと共同して実践的な教育指導を行います。取得単位は学部専門教育科目として卒業単位にカウントされます（学生便覧で確認のこと）。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

**5. 学習の到達目標：**

職業生活についての具体的なイメージを得て、自らのキャリアについて主体的に構想していけるようになる。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. オリエンテーション
2. 日本経済の基本構造について(1)
3. 日本経済の基本構造について(2)
4. ビジネス全般について(1)
5. ビジネス全般について(2)
6. ビジネス全般について(3)
7. 公務員
8. 労働法
9. 二十歳のハローワーク（様々な職種で活躍する先輩等による就職講演会）
10. 業界研究(1)
11. 業界研究(2)
12. 業界研究(3)
13. 自己分析と就職活動(1)
14. 自己分析と就職活動(2)
15. まとめ

**8. 成績評価方法：**

授業と指定されたセミナーへの出席およびその報告の提出（100%）。

**9. 教科書および参考書：**

特になし。

**10. 授業時間外学習：**

授業中に指示された課題の準備。日常的に、新聞・ネット等を通じて経済情報に目配りすること。

**11. 実務・実践的授業/Practical business：○**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

**12. その他：**

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業/Practical business

科目名：科学技術社会論実践演習／

曜日・講時：前期集中 その他 その他

セメスター：集中（1学期）、単位数：2

担当教員：直江 清隆, 高浦 康有, 堀尾 喜彦, 佐藤 茂雄, 山内 保典（教授）

講義コード：LM98837, 科目ナンバリング：LAL-OAR528J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

**1. 授業題目：**

＜人間中心＞で情報端末をデザインする

**2. Course Title (授業題目)：**

Designing "human-centered" information terminal

**3. 授業の目的と概要：**

情報技術の急速な発展により社会のあり方に大きな変化がもたらされてきた。新たな技術革新によってこれまでと違った可能性が開けてくることが期待されている一方、情報技術を介した社会や個々の人間の関わりや企業や研究者の担う責任にも大きな変化が生じてくることが予想されている。

この授業は、情報端末に焦点を当て、いかにして情報技術が人間の wellbeing（幸福、よい状態）に貢献できるかを議論し、これからの技術社会を適切に予想、評価しながら、社会と IT を協動的に発展させていく方法を獲得することを目的とする。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

The rapid development of information technology has brought about great changes in society. While new technological innovations are expected to open up new possibilities, human-society relations mediated by information technology and the responsibilities of companies and researchers will also change dramatically.

This course provides students with opportunities to discuss from many perspectives whether and how information technology contributes to enhancing human wellbeing (happiness, good state), gain the skills needed to anticipate and review the future IT society, and to find a way to develop IT cooperatively with the society.

**5. 学習の到達目標：**

1) 技術に関する倫理的、社会的な問題について、多様な側面からのアプローチを通して解決の方向や手法を学ぶ。  
また、2) 異なる立場、専門分野の人々の発想を理解し、コミュニケーションを取れる能力を身につける。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

Students learn about 1) directions and methods for solving social issues using various approaches (technical, ethical, economical and so on), and 2) develop the ability to understand and communicate with people in different positions and specialties.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

この授業は、多様な参加者によるワークショップとそれを補うレクチャーによって構成される。ワークショップの参加者には、企業の技術者（東京エレクトロン株式会社など）、理工系の大学院生（東北大学電気通信研究所）、文科系等の大学院生（文、経、医など）を予定している。それぞれの視点から統一的なテーマについて自由に意見を交わし、共通の議論を創りあげていくことが目標である。また、ワークショップの議論の後、関連分野のレクチャーと討論により、議論を深化させる機会を設ける。

事前のオリエンテーション（第1回、川内、片平）、ワークショップ（第2回～第11回、合宿形式、東松島市野蒜を予定）、フォローアップ・レクチャー（第12回～第15回、川内ないし片平）の3部で構成される。

1. オリエンテーション（川内、片平）
2. レクチャー1「情報科学から見た情報端末」  
レクチャー2「歴史や社会から見た情報端末」
3. 討論、ワークショップの方法の説明
4. アセスメント1「現在の情報端末を人間中心の観点から評価する」
5. アセスメント1 報告・全体討論
6. デザイン「2040年の「人間中心の情報端末」を考える
7. デザイン「2040年の「人間中心の情報端末」を考える
8. デザイン 報告・全体討論
9. アセスメント2「社会に与える変化を予測する」
10. アセスメント2「社会に与える変化を予測する」
11. アセスメント2 報告・全体討論
12. フォローアップ・レクチャー1「高齢化社会と情報端末」  
フォローアップ・レクチャー2「IoT社会と環境、資源」
13. フォローアップ・レクチャー3「IoT社会と市民参加」  
フォローアップ・レクチャー4「IoTと地域社会の実例」
14. アセスメント3 <人間中心>な社会を仮想で作ってみる
15. 全体討論 人間中心的社会とは何か

授業は、直江清隆(文学研究科) / 高浦康有(経済学研究科) / 堀尾喜彦(電気通信研究所) / 佐藤茂雄(電気通信研究所) / 山内保典(高度教養教育・学生支援機構) および外部講師により行われる。

**8. 成績評価方法：**

発表・授業への取り組みや小レポートを総合的に評価する。

**9. 教科書および参考書：**

特になし/No textbooks will be used.

**10. 授業時間外学習：**

website や書籍を通して、授業内容に関する情報や話題を収集すること。/Students are required to collect information and topics related to the content of the class using websits and books.

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**12. その他：**

初回の授業日（日時は学期開始後に連絡する）に概要を説明するが、ワークショップには定員を設ける。この際、理工系の大学院生と文科系等の大学院生（及び学部生）のバランスも考慮するので、参加希望が叶えられない場合もありうる。本実習のフォローアップ企画として希望者に対して「未来社会デザイン塾」を開設する。この塾への参加により、ワークショップやレクチャーの成果を振り返り、より高い目標に到達できるようにする。